

生活援助従事者研修 評価方法

修了評価は筆記試験により行ないます。生活援助従事者として、最低限理解・習得すべき事項を確認します。

評価基準は、100点を満点評価とし、A90点以上、B80～89点、C70～79点、D70点未満の4区分とします。C以上が評価基準を満たしていると判断します。

評価者は、阿智村社会福祉協議会 奥澤 享央（介護福祉士）です。

（1）職務の理解

評価のポイント

なし

（2）介護における尊厳の保持・自立支援

評価のポイント

- ①介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。
- ②虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを理解している。

（3）介護の基本

評価のポイント

- ①介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について理解している。
- ②介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを理解している。
- ③生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを理解している。
- ④介護職におこりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点等を理解している。

（4）介護・福祉サービスの理解と医療との連携

評価のポイント

- ①生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解している。
- ②介護保険制度や障害福祉制度の理念と保険料負担、本人負担について理解している。例：利用者負担割合等
- ③ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて理解している。

- ④高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について理解している。

(5) 介護におけるコミュニケーション技術

評価のポイント

- ①共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。
- ②家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。
- ③言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。
- ④記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。

(6) 老化と認知症の理解

評価のポイント

- ①加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。
例：退職による社会的立場の喪失感、運動機能の低下による無力感や羞恥心、感覚機能の低下によるストレスや疎外感、知的機能の低下による意欲の低下等
- ②高齢者に多い疾病の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。
例：脳梗塞の場合、突発的に症状が起こり、急速に意識障害、片麻痺、半側感覚障害等を生じる等
- ③認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。
- ④健康な高齢者の「物忘れ」と、認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。
- ⑤認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性、およびそれに影響する要因を列挙できる。
- ⑥認知症の利用者の健康管理と廃用症候群予防の重要性と留意点について列挙できる。
- ⑦認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードを理解している。
例：生活習慣や生活様式の継続、なじみの人間関係やなじみの空間、プライバシーの確保と団らんの場の確保等、地域を含めて生活環境とすること
- ⑧認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を列挙できる。
- ⑨家族の気持ちや、家族が受けやすいストレスについて理解している。

(7) 障害の理解

評価のポイント

- ①障害の概念と I C F について概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。
- ②障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。

(8) こころとからだのしくみと生活支援技術

評価のポイント

- ①主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度等に応じた高齢者の在宅生活について列挙できる。
- ②利用者の身体の状態に合わせた介護、環境整備についてポイントを理解している。
- ③人体の構造や機能の基礎的知識を習得し、何故行動が起こるのか概要を理解している。
- ④家事援助の機能の概要について列挙できる。
- ⑤移動・移乗の意味と関連する用具・機器、および移動・移乗に関するからだのしくみを理解し、立ち上がりや移動の際の声かけ、歩行等が不安定な者の移動支援・見守りを行うことができる。
- ⑥食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法のポイントを理解し、食事に関するからだのしくみを理解している。
- ⑦睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠に関するからだのしくみを理解している。
- ⑧ターミナルケアの考え方について列挙できる。

(9) 実習

評価のポイント

移動・移乗について、指示に基づいて経験し、理解できる。

再履修等の基準

講師により介護技術を習得したと評価されない場合は、再履修の必要あり。

(10) 振り返り

評価のポイント

なし